

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	1・2・3・4
授業科目	コンピュータリテラシー	学期	前期授業
担当教員	松田 善臣	選択/必修	必修
科目コード	H012010	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要 現代社会において要求される情報活用能力の習得を目標とし、実際にコンピュータを使用しながら情報活用の基礎的能力を身につける。Windowsの基本操作、インターネットの利用、文書作成、表計算、プレゼンテーション・ソフトなどを演習する。

**【到達目標】**

- ・コンピュータの基本的な操作ができる。
- ・ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。
- ・タッチタイプができる。

授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報セキュリティポリシー</li> <li>2. ガイダンス、MS-Windowsの基本操作、タッチタイピング</li> <li>3. Officeの基本操作、日本語入力の方法</li> <li>4. インターネットの利用、学内メールの活用</li> <li>5. ワープロの概念と基本機能、編集機能と修飾機能</li> <li>6. レイアウト、作表と罫線</li> <li>7. 表組によるレイアウト、オブジェクトの挿入と編集</li> <li>8. ビジネス文書の作成、写真の編集とワードアート</li> <li>9. ワード総合課題</li> <li>10. 表計算の概念と基本機能、セル番地と数式</li> <li>11. 数式、関数の活用</li> <li>12. グラフウィザード、グラフ機能の活用</li> <li>13. データベース機能、統計分析への応用</li> <li>14. エクセル総合課題</li> <li>15. プレゼンテーションの概念と基本機能、スライドの編集</li> </ol>
-------	---

テキスト 開講時に指示する。

参考文献

評価方法 演習課題(70%)、タイピング試験(30%)

その他 ※1  
※2

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	1・2・3・4
授業科目	情報リテラシー	学期	前期授業
担当教員	金野 和弘(Kazuhiro KONNO)	選択/必修	必修
科目コード	H012250	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要 情報リテラシーとは、情報を収集・加工・蓄積するための基礎能力である。高度情報社会といえる現代においては、必要とされる情報の内容もさることながら、それらを有効に活用するための基礎能力もまた変化している。

本講義の目的は、大学生として身につけるべき情報リテラシーを習得するとともに、それを自己の生活に活用できる能力を養うことである。本講義では、情報リテラシーに関する基礎知識を提供するとともに、自己の生活に活用できるような最新手法を紹介する。

**【到達目標】**

- ・インターネットを活用して、自分が必要としている情報を適切に選別・収集することができる。
- ・収集した情報をいつでも利用可能な状態で管理することができる。
- ・目上の人宛のビジネスメールを書くことができる。

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション (キーワード:講義の進め方, 評価方法)</p> <p>第2回 情報収集の基本1:Webの活用 (Web検索, RSS, アラートサービス, データベース)</p> <p>第3回 情報収集の基本2:メモ (メモの方法, メモ支援ツール)</p> <p>第4回 ファイルの整理・保存技術 (ファイル管理, 検索, 分類)</p> <p>第5回 思考の整理手法 (マインドマップ, 問題解決フレームワーク)</p> <p>第6回 プレゼンテーションの技術 (プレゼンテーションの基礎知識, プレゼンテーション手法, PowerPoint)</p> <p>第7回 ビジネスメールの作法1 (アドレス帳, 宛先, 件名, 添付ファイル)</p> <p>中間テスト</p> <p>第8回 ビジネスメールの作法2 (本文, 電子メールの他の活用法)</p> <p>第9回 論文・レポート作成の基本技術1 (書式, 文字, 余白, ページ番号, 図表, 表記の統一)</p> <p>第10回 論文・レポート作成の基本技術2 (基本要件, 参考文献, 注, 目次, 索引)</p> <p>第11回 引用と剽窃 (剽窃, 引用のしかた, 出所の表示方法)</p> <p>第12回 情報セキュリティの基礎知識 (不正行為, マルウェア, スパムメール)</p> <p>第13回 情報社会における情報倫理 (プライバシー, 個人情報保護, 名誉毀損)</p> <p>第14回 インターネット時代の知的財産権 (著作権, 違法コピー, クリエイティブ・コモンズ)</p> <p>第15回 総括</p>
-------	---

テキスト	「情報リテラシーテキスト」(第1回目に説明予定)
参考文献	補助資料は、Moodle ( <a href="http://coc2net.u-shimane.ac.jp/moodle/">http://coc2net.u-shimane.ac.jp/moodle/</a> ) 上で紹介・配布する。
評価方法	最終試験(70%)、中間テスト(20%)、ミニットペーパーの内容(10%)をもとに評価する。ミニット・ペーパーの内容には、確認テストおよび提出課題の得点を含む。
その他	他人の迷惑になる行為(私語、講義中の教室の出入り)は厳禁とする。  各回講義の開始前までに、該当部分のテキストを必ず精読しておくこと。 ※1 ※2

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	2・3・4
授業科目	情報処理の基礎 I	学期	前期授業
担当教員	松田 善臣	選択/必修	必修
科目コード	H012290	授業形態	講義
		単位数	2

**授業の概要** 本講義では、情報社会において最低限求められるコンピュータの知識と、情報技術を安全に利用するための知識を身につけることを目的とします。

具体的な内容としては、情報技術の基礎知識を問う国家試験である「ITパスポート試験」の「テクノロジー」分野を学習します。

なお、秋学期に開講される「情報処理の基礎 II (寺田先生ご担当)」では、「ITパスポート試験」の「マネジメント系」および「ストラテジ系」を扱う予定になっていますので、本講義と情報処理の基礎 II をあわせて受講することで、「ITパスポート試験」の出題範囲をすべて網羅することができます。

情報処理の基礎 I・II を受講後、ITパスポート試験に挑戦することを強く勧めます。

**【到達目標】**

- ・コンピュータの仕組みを理解し、自己の言葉で説明できる。
- ・情報技術を安全に利用するための知識を身につけることができる。

<b>授業の内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、ITパスポート試験とは</li> <li>2. コンピュータの構成要素</li> <li>3. システムの構成要素</li> <li>4. ソフトウェア</li> <li>5. ハードウェア</li> <li>6. ヒューマンインターフェース、マルチメディア</li> <li>7. データベース</li> <li>8. ネットワーク</li> <li>9. ネットワーク</li> <li>10. 中間試験</li> <li>11. セキュリティ</li> <li>12. 情報に関する基礎理論</li> <li>13. 情報に関する基礎理論</li> <li>14. アルゴリズムとプログラミング</li> <li>15. アルゴリズムとプログラミング</li> </ol>
--------------	---

テキスト	開講時に指定する。
------	-----------

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栢木厚『平成26年度 イメージ&amp;クレパ方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室 CBT対応』技術評論社; 第6版、2013年。(ISBN: 978-4774160900)</li> <li>・高橋麻奈『やさしいITパスポート講座 2014年版』ソフトバンククリエイティブ、2013年。(ISBN: 978-4797375640)</li> <li>・藤川美香子『1回で受かるITパスポート合格テキスト '14年版』成美堂出版、2013年。(ISBN: 978-4415216980)</li> <li>・きたみりゅうじ『キタミ式イラストIT塾 ITパスポート 平成26年度 CBT対応』技術評論社; 第5版、2013年。(ISBN: 978-4774161808)</li> <li>・ノマドワークス『ITパスポート完全合格教本&lt;2014年度版&gt;』新星出版社、2013年。(ISBN: 978-4774161808)</li> </ul>
------	--

978-4405048270)  
 ・ノマドワークス『ITパスポート受かる80講(2011→2012年版)―赤ペン式でスラスラわかる』新星出版社、2011年。(ISBN:978-4405047556)  
 ・アイテック情報技術教育研究部『ITパスポート 試験対策書』アイテック、2011年。(ISBN:978-4872688764)

評価方法 中間試験(40%)、期末試験(60%)

その他 昨年度の講義内容と完全にはありませんので再履修生はご注意ください。  
 ※1  
 ※2

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	2・3・4
授業科目	情報処理の基礎Ⅱ	学期	後期授業
担当教員	寺田 哲志	選択/必修	選択
科目コード	H012300	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要 【概要】  
 情報化社会の中で働く社会人として備えておきたい基礎知識を学ぶ。  
 企業における情報処理戦略と、情報管理に関する知識を中心に理解を深めて行く。

【到達目標】  
 実社会、企業における情報処理戦略と、その管理に携わるための基礎的知識を理解する。ITパスポート試験、合格程度の知識を身につける。

授業の内容 第1回 講義概要説明  
 第2回 企業活動・法務  
 第3回 経営戦略マネジメント  
 第4回 技術戦略マネジメント  
 第5回 ビジネスインダストリ  
 第6回 確認テスト  
 第7回 システム戦略  
 第8回 システム企画  
 第9回 システム開発技術  
 第10回 ソフトウェア開発管理技術  
 第11回 確認テスト  
 第12回 プロジェクトマネジメント  
 第13回 サービスマネジメント  
 第14回 システム監査  
 第15回 最終確認テスト

テキスト 春学期「情報処理の基礎Ⅰ」で指定されたテキストを引き続き利用する。  
 補助テキストを必要に応じて配布する。

参考文献 ITパスポート試験に関するテキストが多数出版されているので、資格試験対策にはこれらも参考とすること。

評価方法 確認テスト(2回×50%)で評価する。  
 これらのテストでは、各自のパソコンからネット上に設定してある問題に答える。  
 統計学などで設定したムードルアカウントを必要とする。

その他 15回の講義のうち2回程度IT業界の実務者を招聘して、IT企業の具体的業務に関する講義を行う予定である。  
 ※1  
 ※2

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	3・4
授業科目	プログラミングの基礎(プログラム入門)	学期	前期授業
担当教員	非常勤講師 江口圭一	選択/必修	選択
科目コード	H012160	授業形態	講義
		単位数	2

**授業の概要**  
 本講義では、コンピュータの動作原理についての講義やプログラミング言語Rubyを用いたプログラミングの実習を通して、プログラミングに関する基本的な知識とスキルを習得することを目的とする。また、それらの講義・実習によって、論理的な思考能力を高めることも目指す。  
**【到達目標】**  
 コンピュータの基本的な動作原理を理解できる。プログラミング言語Rubyの基本的な操作ができる。

**授業の内容**  
 第1回 オリエンテーション  
 第2回 プログラミングとは  
 第3回 アルゴリズムの考え方  
 第4回 Rubyのインストールと簡単なプログラミング  
 第5回 数の計算  
 第6回 文字列の計算と変数の利用  
 第7回 インタラクティブなプログラム(1) irbの利用  
 第8回 インタラクティブなプログラム(2) データの変換  
 第9回 条件判断(1) if, else, elsifの利用  
 第10回 条件判断(2) 比較演算子の利用  
 第11回 条件判断(3) 論理演算子の利用  
 第12回 繰り返し  
 第13回 乱数を使ったプログラム  
 第14回 応用問題  
 第15回 総括

**テキスト**  
 テキストは特に指定しない。適宜、資料を配付する。

**参考文献**  
 Chris Pine (2010) 初めてのプログラミング第2版 オライリー・ジャパン

**評価方法**  
 出席30%、期末試験70%の割合で評価する。

**その他**  
 各自のパソコンにプログラミングを行うための環境を整え、実習を行うので、パソコンを必ず持参すること。パソコンのOSはWindows8.1または10とする。それ以外のOSでの履修については、初回講義時に必ず相談すること。講義中にプログラムファイルなどをダウンロード、アップロードすることがあるので、LANケーブルは毎回持参しておくこと。  
 ※1  
 ※2

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	3・4
授業科目	情報公開システム論	学期	後期集中
担当教員	非常勤講師 横山 輝明	選択/必修	選択
科目コード	H012060	授業形態	講義
		単位数	2

**授業の概要**  
 インターネットを用いた情報公開システムの原理や技術について学び、情報公開の方法を体験する。授業では、インターネット通信や情報公開に関する技術についての講義とWWWなどを用いた情報公開の演習を実施する。また、近年注目されているオープンデータと呼ばれる新たな情報公開の考え方について学び、アイデア出しコンテストを実施する。  
**【到達目標】**  
 インターネットを用いた情報公開の現状や方法論について説明できる、WWWを用いた簡単な情報公開ができることを目標とする。オープンデータの考え方や自分たちができる情報公開について理解できることを目標とする。

**授業の内容**  
 講義では、WWW技術とWebページ作成方法の学習と、Webページ作成の演習を実施する。学生はグループワークとしてコンテンツ作成から公開までを実践する。作成内容を講義内でも発表する。

第1回 講義の説明、教員紹介、電子文書の説明  
 第2回 情報公開システムの概要  
 第3回 WWW技術、Webページ作成方法の学習(1)  
 第4回 Webページ作成方法の学習(2)  
 第5回 グループ分け、Webページ作成演習(1)  
 第6回 Webページ作成演習(2)  
 第7回 Webページ作成演習(3)  
 第8回 Webページ公開方法の学習  
 第9回 Webページ作成の経過発表、Webページ仕上げ演習(1)  
 第10回 Webページ仕上げ演習(2)  
 第11回 Webページ仕上げ演習(3)、作成した内容の発表  
 第12回 Webページ関連技術の学習(1)  
 第13回 Webページ関連技術の学習(2)  
 第14回 オープンデータ・アイデアソン(1)  
 第15回 オープンデータ・アイデアソン(2)  
 第16回 まとめ

**テキスト**  
 講義内容や演習に必要な資料はWebページより配布する

**参考文献**  
 講義内で適宜紹介する

**評価方法**  
 情報公開方法の知識と実践への理解を評価するため、講義への参加姿勢、演習での発表内容、最終成果物を対象とする。評価配分は、平常点20%、発表40%、最終成果物40%である。

**その他**  
 ※1  
 ※2

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	3・4
授業科目	GIS概論	学期	後期授業
担当教員	松田 善臣	選択/必修	選択必修
科目コード	H012280	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	<p>本講義では、GIS(地理情報システム:Geographic Information System)を初めて学ぶ受講生を対象として、GISの基礎から応用事例までを幅広く解説する。</p> <p>また、GISソフトを用いた演習を通して、GISソフトの基本操作、データの表示方法、基本的なデータ解析方法などを学習し、地域分析を行うツールとしてGISを活用できる知識と能力を身につけることを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GISに関する基礎知識、仕組みを自己の言葉で説明できる。</li> <li>・GISソフトの操作ができる。</li> <li>・データを自分で入手し、GISを用いて簡単な分析を行うことができる。</li> </ul>
-------	--

授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. GISとは</li> <li>2. 地図に関する基礎知識</li> <li>3. 空間データの位置表現</li> <li>4. GISのデータ構造</li> <li>5. GISの空間データ分析</li> <li>6. GISとGPS</li> <li>7. GISとGPS</li> <li>8. GISの活用事例(プレゼンテーション)</li> <li>9. GISの活用事例(プレゼンテーション)</li> <li>10. GISの活用事例(プレゼンテーション)</li> <li>11. 中間試験</li> <li>12. ArcGISの基本操作</li> <li>13. 地図の表示・レイアウト</li> <li>14. データの編集</li> <li>15. データの入手と加工</li> </ol>
-------	--

テキスト	開講時に指示する。また、必要に応じてプリントを配布する。
------	------------------------------

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢野桂司ほか『京都の歴史GIS バイリンガル版(シリーズ 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ)』ナカニシヤ出版、2011年。(ISBN:978-4779505423)</li> <li>・田口正己『郊外都市の地域構造と行財政の現状—柏市の地域分析と行財政分析』本の泉社、2011年。(ISBN:978-4780707984)</li> <li>・土井美和子ほか『ユビキタス技術—位置情報の活用と流通 ロボットサービスによる活用の変革—』オーム社、2010年。(ISBN:978-4274209451)</li> <li>・秋山孝正ほか『情報化時代の都市交通計画』コロナ社、2010年。(ISBN:978-4339052282)</li> <li>・村井俊治(監修)『地理空間情報コンサルタントへの道』日本測量協会、2010年。(ISBN:978-4889410457)</li> <li>・佐土原聡『時空間情報プラットフォーム—環境情報の可視化と協働』東京大学出版会、2010年。(ISBN:978-4130668521)</li> <li>・浅沼市男『実践空間情報論—地理情報システム入門のための—』共立出版、2008。</li> <li>・村山祐司ほか『GISの技術(シリーズGIS)』朝倉書店、2009年。(ISBN:978-4254168327)</li> <li>・村山祐司ほか『社会基盤・環境のためのGIS(シリーズGIS)』朝倉書店、2009年。(ISBN:</li> </ul>
------	--

978-4254168358)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・村山祐司ほか『生活・文化のためのGIS』朝倉書店、2009年。</li> <li>・村山祐司ほか『ビジネス・行政のためのGIS(シリーズGIS)』朝倉書店、2008年。</li> <li>・村山祐司ほか『GISの理論(シリーズGIS)』朝倉書店、2008年年。</li> </ul>

評価方法	中間試験(40%)、プレゼンテーション(40%)、課題(20%)
------	----------------------------------

その他	<p>※1</p> <p>※2</p>
-----	---------------------

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	1・2・3・4
授業科目	統計と数学	学期	前期授業
担当教員	寺田 哲志	選択／必修	選択
科目コード	H012260	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	<p>【概要】 「統計学」「経済学」などの科目を学ぶ準備として、数学の基本を確認するとともにごく初歩の統計学も取り扱う。 今後の統計学に類する講義においては、エクセルを使いこなして計算できることが要求される。これに備えて各自パソコンを持参して演習を行う。</p> <p>【到達目標】 講義前半で、数学の基礎を復習し今後の統計・経済学系の講義に備える。 講義後半は、エクセルを利用した統計計算の基礎を学ぶ。</p> <p>【注意事項】 この講義は1年生向けに数学の基礎的な部分を補習することを目的とする講義である。 統計学Ⅰの単位取得後に受講しても学習効果は小さいため、2年生以上の受講は推奨しない。</p> <p>パソコンのOS及びOfficeのバージョンは新1年生の共同購入パソコンを標準として講義内容を構成する。 過年度学生が受講する場合、サポートが不十分になるので各自に十分なパソコン・スキルを求める。</p>
-------	--

授業の内容	<p>第1回 授業の概要 第2回 数と式 第3回 方程式 第4回 不等式 第5回 関数とグラフ 第6回 微分 第7回 中間テスト 第8回 統計とは—統計処理の段階 第9回 まとまりの代表値(モード・メディアン・移動平均) 第10回 度数分布とヒストグラム 第11回 確率と確率分布 第12回 散らばりの数値要約「標準偏差と分散」 第13回 標準偏差の応用「標準化、偏差値の計算」 第14回 アンケートの処理 第15回 連関係数</p>
-------	---

テキスト	<p>演習テキストを必要に応じて配布する。 統計部分の講義では、毎回必ずExcelがインストールされたパソコンを持参し、学内ネットへ接続しておくこと。</p>
------	---

参考文献	<p>飯島徹穂(編)(2004)「大学生の数学リテラシー」共立出版 白砂堤津耶(2009)「初歩からの統計学」日本評論社 田久浩志(2004)「EXCELで学ぶやさしい統計学」オーム社</p>
------	--

評価方法	授業内で行う課題の提出、中間試験、期末試験から総合的に評価する。
------	----------------------------------

その他	<p>※1 ※2</p>
-----	------------------

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	1・2・3・4
授業科目	統計学Ⅰ	学期	後期授業
担当教員	寺田 哲志	選択／必修	必修
科目コード	H012170	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	<p>「統計と数学」の内容を含む記述統計を扱う。平均などの「まとまりの代表値」、標準偏差など「散らばりの代表値」を学び、これらを踏まえて「相関係数」「回帰分析」へと発展させていく。コンピュータによる演習を通じて理解を深める。</p> <p>【到達目標】 講義レポートの提出や、卒業論文などの執筆において、その主旨に合ったデータを収集でき、適切に記述統計方法を選択できる。</p>
-------	---

授業の内容	<p>第1回 講義の概要解説—統計データのまとめ方 第2回 まとまりの代表値(1) 第3回 まとまりの代表値(2) 第4回 社会・経済統計データの利用 第5回 ちらばりの代表値:度数分布とヒストグラム 第6回 ちらばりの代表値:分散と標準偏差 第7回 標準偏差の応用:標準化、偏差値、変動係数 第8回 中間テスト 第9回 共分散と相関分析 第10回 相関関係と因果関係 第11回 回帰分析 第12回 回帰分析による推定と検定 第13回 順位相関係数 第14回 クロス集計表とユールの連関係数 第15回 クロス集計表とクラメールの連関係数</p>
-------	--

テキスト	
------	--

参考文献	<p>「統計のはなし—基礎・応用・娯楽」大村 平 日科技連出版社、2002 「完全独習 統計学入門」小島 寛之、ダイヤモンド社、2006 「Excelで学ぶ統計解析」涌井良幸＋涌井貞美 ナツメ社、2007</p>
------	--

評価方法	講義内での課題提出30%、中間テスト30%、期末テスト40%を評価基準とする。
------	---

その他	<p>毎回、必ずExcelがインストールされたパソコンを持参すること。 演習データを「統計用モデル」のサイト、および演習用ファイルサーバーからダウンロードして利用する。 これに備えて学内ネットへの接続を確立しておくこと。 ※1 ※2</p>
-----	--

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	2・3・4
授業科目	統計学Ⅱ	学期	前期授業
担当教員	寺田 哲志	選択／必修	必修
科目コード	H012270	授業形態	講義
		単位数	2

**授業の概要**  
「統計学Ⅱ」では、まず確率分布の理論を学ぶ。  
続いて、これまでの統計科目で習得してきた標準偏差、分散などの概念を応用し、母集団における平均や分散あるいは比率の「推定」「検定」の方法を学ぶ。  
演習に当たっては、現実に即したデータを利用し、各自のパソコンで計算することで理解を深める。

**【到達目標】**  
講義レポートの提出や卒業論文などの執筆において、収集した標本データから母集団の特性を「推定」できる。あるいは既存データと比較した「検定」が行える。

**授業の内容**

第1回 講義の概要解説－推測統計学について－  
第2回 標準正規分布を使った推計  
第3回 母平均の信頼限界の推定(1)  
第4回 母平均の信頼限界の推定(2)  
第5回 母分散の信頼限界の推定  
第6回 母平均の検定(1標本)(1)  
第7回 母平均の検定(1標本)(2)  
第8回 中間テスト  
第9回 母平均の検定(2標本)(1)  
第10回 母平均の検定(2標本)(2)  
第11回 母比率の推定  
第12回 母比率の検定  
第13回 母比率の検定(2標本)  
第14回 標本サイズの決定  
第15回 標本サイズの決定

**テキスト**

**参考文献**  
『文系のための理系的問題解決—Excelで実践する数理的・統計的分析アプローチ』多田 実 オーム社、2008年  
『初めての統計学』鳥居泰彦 日本経済新聞出版社 1994年

**評価方法**  
講義内での課題提出30%、中間テスト30%、期末テスト40%を総合して評価する。

**その他**  
毎回、必ずExcelがインストールされたパソコンを持参すること。  
演習データを「統計用モデル」のサイト、および演習用ファイルサーバーからダウンロードして利用するため、学内ネットへの接続を確立しておくこと。  
※1  
※2

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	2・3・4
授業科目	統計分析技法	学期	後期授業
担当教員	松田 善臣	選択／必修	選択必修
科目コード	H012370	授業形態	講義
		単位数	2

**授業の概要**  
この講義では、統計学Ⅰ、Ⅱで学んだ統計学の基礎知識を踏まえ、多変量解析法の基本的な考え方を理解し、実際のデータに対して分析を行うための知識と技術を修得することを目標とします。

統計学Ⅰ・Ⅱでは、2変量までのデータ解析法について学んできました。たとえば、「ある農作物の収穫量」という目的変数を「気温」という説明変数で表す式(単回帰式)を導出したのは2変量データの解析です。しかし、農作物の収穫量に影響を与えるのは気温だけでしょうか。気温だけが収穫量に影響を与えていると考えるよりは、さまざまな要因(たとえば、降水量や土壌の養分量など)が影響を与えていると考える方が自然ではないでしょうか。

この例に限らず、我々の周りには複数の要因が複雑に絡み合って構成されている「もの」や「現象」が多く存在しています。こうしたものを科学的に解明するための手法が「多変量解析法」です。

本講義では、多変量解析法の中でも特に「重回帰分析」を中心に講義を行います。また、重回帰分析以外の手法についても、その考え方とどのような場合に用いるのかについて簡単に紹介します。

**【到達目標】**  
・多変量解析法について、自己の言葉で説明できる。  
・基本的な多変量解析法を理解し、利用することができる。

**授業の内容**

第1回 多変量解析とは  
第2回 統計解析の基礎  
第3回 統計解析の基礎  
第4回 相関分析  
第5回 単回帰分析  
第6回 重回帰分析  
第7回 重回帰分析  
第8回 重回帰分析  
第9回 重回帰分析  
第10回 重回帰分析  
第11回 数量化I類  
第12回 判別分析  
第13回 その他の多変量解析手法  
第14回 まとめ  
第15回 期末試験

**テキスト**  
開講時に指示する。

**参考文献**  
・鳥崎哲彦『社会調査の実際—統計調査の方法とデータの分析』学文社: 第九版, 2011.  
・塩野康徳ほか『人文科学・社会科学における基礎統計および多変量解析—ダウンロード・統計ソフト付』インテックス出版, 2011.  
・兼子毅『Rで学ぶ多変量解析』日科技連出版社, 2011.  
・石村貞夫, 石村友二郎『SPSSでやさしく学ぶ多変量解析』東京図書: 第4版, 2010.  
・石村貞夫ほか『多変量解析によるデータマイニング』共立出版, 2010.  
・清水功次『使える!多変量解析—理論と経営データでわかる』日刊工業新聞社, 2009.  
・中山厚穂, 長沢伸也『Excelソルバー多変量解析—ポジショニング編』日科技連出版社, 2009.  
・中村永友, 金明哲『多次元データ解析法 (Rで学ぶデータサイエンス 2)』共立出版, 2009.  
・木下栄蔵『わかりやすい数学モデルによる多変量解析入門』近代科学社: 第2版, 2009.

評価方法	期末試験(70%)、小テスト(20%)、課題(10%)
その他	※1 ※2

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	1・2・3・4
授業科目	社会調査入門	学期	後期授業
担当教員	藤原 真砂	選択/必修	選択
科目コード	H012310	授業形態	講義
		単位数	2

授業の概要	<p>本講義を学べば社会調査の基本が理解できます。</p> <p>社会調査は実証的社会科学、さらに社会で市場調査をはじめとする実務をこなす上で不可欠の技法である。本講義では社会調査とはどのようなものか、その意義と類型に関する基本的な事項を解説する。</p> <p>1.質的調査の意義をまず説明する。短期のヒアリング調査から始めて、長期の参与観察法に至る「事例研究法」の手法の概観を行う。1つの事例を通して、世界を語る、要するに一般化する手法を説明する。</p> <p>2.量的調査の手法として「アンケート調査法」を紹介する。調査設計、集計、分析の方法の概要を解説する。最後に、</p> <p>3.ウェブ上で容易に利用出来るようになった民間、官庁統計の活用法を概説する。主要統計を概観し、それが情報の宝の山であることを理解してもらおう。最後に以上のまとめを行い、それぞれの調査手法の長短を、活用法を総括する。</p>
-------	---

授業の内容	<p>第1回 ガイダンス-実証研究の手法-事例研究法、アンケート調査法、統計調査を柱として-の紹介。</p> <p>第2回 社会調査法入門講義の前に-社会諸科学の基本的な考え方-</p> <p>第3回 社会調査の歴史</p> <p>第4回 社会調査の手法 質的調査-事例研究法(1) 事例の紹介</p> <p>第5回 社会調査の手法 質的調査-事例研究法(2) 帰納法について</p> <p>第6回 社会調査の手法 質的調査-事例研究法(3) 演繹法について</p> <p>第7回 まとめおよび小テスト</p> <p>第8回 アンケート調査法について-美郷町住民の買い物行動調査を具体例とします-</p> <p>第9回 アンケート調査法-現地を知り、問題を知り、解明したいテーマを明らかにする</p> <p>第10回 調査票の構成の仕方-仮説をどのようにつくるかをおはしします。</p> <p>第11回 調査票の作り方-ワーディング</p> <p>第12回 サンプリンクの原理論理</p> <p>第13回 集計も仕方-単純集計、クロス集計-</p> <p>第14回 統計調査の概要-島根県政策企画局統計調査課の専門家を迎えての講義-</p> <p>第15回 統計調査-労働力状態表を利用して-e-statを利用して-</p>
-------	--

テキスト	本学独自のステップ式学習テキスト。
------	-------------------

参考文献	
------	--

評価方法	出席点に加えて、小テストを多用して、理解度を確認する。また期末には理解度テストを実施する。
------	---

その他	※1 ※2
-----	----------



科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報		対象学年	2・3・4	
授業科目	社会調査法		学期	前期授業	
担当教員	藤原眞砂		選択／必修	選択	
科目コード	H012150	授業形態	講義	単位数	2

**授業の概要**  
本講義は、現代社会の焦燥の問題である少子高齢化問題－ワークライフバランス問題を中心に社会調査を学びます。社会調査の手法を深く理解できます。

社会調査法は統計調査、アンケート調査法を主体に、資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する科目です。社会調査士の取得のための要件科目です。卒論作成の手法を学ぶためにも役に立ちます。

さまざまに事柄を学びますが、基本のテーマは少子高齢化社会対策に関係した男女共同参画、ワークライフバランス社会構築に関係しています。このテーマに対する理解を深めつつ、さまざまな資料、また初歩的な統計処理に関係したカイニ乗検定、相関係数などの手法の根底にある考え方を学びます。統計に苦手な人ほど履修して欲しい、と思います。

少子高齢化が進展する今後の社会の運営、活性化には、女性の労働、社会参加が不可欠である。本講義では女性の労働、社会参加を統一したテーマとして、これに関係した統計調査、アンケート調査データ等を用いながら、これからの社会設計を考える、という流れではなしを進める。また、平均値、分散、標準偏差、カイニ乗検定、相関係数という統計学で学んだ基本概念に関しても、本当に理解して使えるように、その肝やかなめの考え方を学び直し、調査実習、卒論作成でテクニックとして使えるよう指導する。また、統計を作っている県の統計専門担当官のはなしを通して、統計調査の意義、見方を学ぶ。細かい社会調査の手法に関しては適宜、参考図書等紹介し、個人で学んでもらう、という形式をとる。

**授業の内容**

第1回 ガイダンス 社会調査法の講義の構成について  
 第2回 統計調査－国勢調査の労働力状態表を用いながら男女の労働参加率、失業率、フリーター状況。  
 第3回 統計調査－国勢調査の労働力状態表を用いながら男女の労働参加率、失業率、フリーター状況などを考察する。  
 第4回 統計調査－社会生活基本調査を用い男女の有償労働(しごと)、無償労働(家事、社会活動)等を観察する。  
 第5回 男女の共同参画に関係した他の統計を確認する。  
 第6回 アンケート調査－男女別、年齢別等のアンケート集計データを用い、アンケートデータの見方を学ぶ。  
 第7回 アンケート調査－男女別、年齢別等のアンケート集計データを用い、アンケートデータの見方を学ぶ。  
 第8回 カイニ乗検定のはなし  
 第9回 カイニ乗検定の実践－使えるようにしよう  
 第10回 相関係数のはなし－基本的な考え方を一知る  
 第11回 相関係数の利用の実践－使えるようにしよう－合計特殊出生率と労働参加率の相関を探る－  
 第12回 小テスト－統計調査とアンケート調査に関する理解度確認のため  
 第13回 社会と統計－島根県統計調査課の統計担当の専門家のはなし－(1)  
 第14回 社会と統計－島根県統計調査課の専門家の専門家のはなし－(2)  
 第15回 男女共同参画社会の構築を目指して(まとめ)

**テキスト**  
本学独自の藤原著のステップ式学習テキストを用いる。机上の議論を排し、実際の調査に携わっている感覚を受講生に持たせながら講義を進める。受講生の人数により実習の形式をとる講義に変更することもある。

**参考文献**  
佐藤信『推計学のすすめ』日科技連。

**評価方法**  
講義の後に適宜、小テストを実施する。期末のテストあり。出席、参加の取り組みの姿勢重視。

**その他**  
※1

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報		対象学年	2・3・4	
授業科目	質的調査法		学期	前期授業	
担当教員	村井 重樹		選択／必修	選択	
科目コード	H012340	授業形態	講義	単位数	2

**授業の概要**  
社会調査は、一般に質的調査と量的調査に分けることができるが、本講義では、そのうちの質的調査を対象として考察を進めていく。そして、社会調査という営みの中で質的調査が有している特性や意義を検討するとともに、さまざまなデータ収集の方法や分析手法を解説する。それらを通じて質的調査法に関する理解を深めることが本講義の目的となる。

**【到達目標】**

- (1) 社会調査における質的調査法の意義を自分の言葉で説明できる。
- (2) 質的調査法に含まれる、さまざまなデータ収集の方法や分析手法の特性を自分の言葉で説明できる。

**授業の内容**

第 1回 イントロダクション——質的調査とは何か  
 概要: 社会調査における質的調査と量的調査の違いを解説する。

第 2回 質的データの種類  
 概要: 質的データにはどのようなものがあるかを解説する。

第 3回 質的調査の意義  
 概要: 社会調査における質的調査のメリットについて解説する。

第 4回 フィールドワークとは何か  
 概要: フィールドワークとはどのようなものかを解説する。

第 5回 参与観察(1)  
 概要: 参与観察とはどのようなものかについて解説する。

第 6回 参与観察(2)  
 概要: 参与観察の手順について解説する。

第 7回 参与観察(3)  
 概要: 参与観察に基づいた社会学の研究を紹介する。

第 8回 聞き取り調査(1)  
 概要: 聞き取り調査とはどのようなものかについて解説する。

第 9回 聞き取り調査(2)  
 概要: 聞き取り調査の手順について解説する。

第10回 聞き取り調査(3)  
 概要: 聞き取り調査における注意事項について解説する。

第11回 ドキュメント分析(1)  
 概要: ドキュメント分析とはどのようなものかについて解説する。

第12回 ドキュメント分析(2)  
 概要: ドキュメント分析に基づいた社会学の研究を紹介する。

第13回	さまざまな質的調査の分析手法 概要: 上記以外のさまざまな質的調査の手法について概観する。
第14回	社会調査における倫理 概要: 質的調査を行う際の倫理と責任について解説する。
第15回	総括——社会分析と質的調査法 概要: 全体を振り返り、社会調査における質的調査の位置づけを確認する。
テキスト	・特定のテキストは使用しない。 ・プリントを配布して講義する。
参考文献	・谷富夫・芦田哲郎(編)、2009年、『よくわかる質的調査 技法編』ミネルヴァ書房 ・ウヴェ・フリック、2011年、『質的研究入門』春秋社
評価方法	・授業内で取り上げた質的調査法についての理解度を問う試験に基づき評価する(85%)。 ・適宜リアクション・ペーパーによって授業に対するコメントや疑問・質問の提出を求め、それに基づき評価する(15%)。
その他	疑問・質問があるときは、気軽に相談してください。 ※1 ※2

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	3・4
授業科目	社会調査法実習 I	学期	前期授業
担当教員	齋藤 暁子	選択／必修	選択
科目コード	H012350	授業形態	講義／実習
		単位数	2
授業の概要	<p>社会調査法実習Iは、社会調査法実習IIと併せて(90分×2コマ連続×15週)で実施します。</p> <p>この科目はこれまでの関連科目で得た知識をもとに、調査の企画、実施、分析、成果報告という社会調査の全プロセスを一通り実習する科目です。</p> <p>本年度は「地域社会における子育て支援」をテーマに、少子高齢化が進む浜田市において今後どのような子育て支援策が必要なのかを、当事者である子育て世帯への調査や、支援する側である行政、教育・保育施設(幼稚園、保育園、子ども園)、子育て支援施設センターなどへの質的・量的調査を通じて明らかにします。最終的には、調査の結果を報告書としてまとめ、地域への調査成果の還元を目指します。</p> <p>前半15回は、先行研究の検討、質的調査(【調査1・子育て支援者への調査】、【調査2・親への調査】)の企画・調査表の作成・実施・分析までを行います。</p> <p>【到達目標】 社会調査とは何か、意義・方法を理解する。 社会調査の一連のプロセスの実施能力が身についている。 社会調査のデータを分析し、報告書としてまとめることができる。</p>		
授業の内容	<p>※授業計画は進捗や調査の状況に応じて変更することがあります。</p> <p>第1回 オリエンテーション(演習内容の紹介、社会調査実習の狙いについての説明など) 第2回 社会調査とは？(社会調査の目的と方法、調査企画案の説明) 第3回 先行研究の検討と調査計画の策定① 第4回 先行研究の検討と調査計画の策定② 第5回 質的調査① 質的調査の方法の確認 第6回 質的調査② 【調査1・子育て支援者への調査】質問項目の作成、調査準備 第7回 質的調査③ 【調査1・子育て支援者への調査】調査の実施(1) 第8回 質的調査④ 【調査1・子育て支援者への調査】調査の実施(2) 第9回 質的調査⑤ 【調査1・子育て支援者への調査】調査結果のまとめ 第10回 質的調査⑥ 【調査2・親への調査】質問項目の作成、調査準備 第11回 質的調査⑦ 【調査2・親への調査】調査の実施(1) 第12回 質的調査⑧ 【調査2・親への調査】調査の実施(2) 第13回 質的調査⑨ 【調査2・親への調査】調査結果のまとめ 第14回 質的調査⑩ 質的調査結果全体のまとめと分析(1) 第15回 質的調査⑪ 質的調査結果全体のまとめと分析(2)</p>		
テキスト	教科書は使用しません。 適宜プリント・資料を配布します。		
参考文献	金井雅之・小林盾・渡邊大輔 2012『社会調査の応用』弘文堂 笠原千絵・永田祐編 2013『地域の＜実践＞を変える社会福祉調査入門』春秋社		
評価方法	実習への貢献度50%、報告書執筆への貢献度50%を総合して評価します。 (出席が3分の2に満たない場合は、単位を認めません)		
その他	履修希望者は第一回のオリエンテーションから出席して下さい。 社会調査士資格に必要な科目なので、資格取得を目指す学生は必ずI・IIの両方を履修して下さい。 ※1		

科目分類	グローバルコミュニケーション科目 情報	対象学年	3・4
授業科目	社会調査法実習Ⅱ	学期	前期授業
担当教員	齋藤 暁子	選択／必修	選択
科目コード	H012360 授業形態 講義／実習	単位数	2

授業の概要	<p>社会調査法実習Ⅰは、社会調査法実習Ⅱと併せて(90分×2コマ連続×15週)で実施します。</p> <p>この科目はこれまでの関連科目で得た知識をもとに、調査の企画、実施、分析、成果報告という社会調査の全プロセスを一通り実習する科目です。</p> <p>本年度は「地域社会における子育て支援」をテーマに、少子高齢化が進む浜田市において今後どのような子育て支援策が必要なのかを、当事者である子育て世帯への調査や、支援する側である行政、教育・保育施設(幼稚園、保育園、子ども園)、子育て支援施設センターなどへの質的・量的調査を通じて明らかにします。最終的には、調査の結果を報告書としてまとめ、地域への調査成果の還元を目指します。</p> <p>後半15回は、量的調査(アンケート調査)の企画・実施・分析と、全体の調査結果をまとめ報告書を作成します。</p> <p><b>【到達目標】</b>  社会調査とは何か、意義・方法を理解する。  社会調査の一連のプロセスの実施能力が身についている。  社会調査のデータを分析し、報告書としてまとめることができる。</p>
-------	---

授業の内容	<p>第1回(通算16回)量的調査① 調査方法の確認  第2回(通算17回)量的調査② アンケート調査項目の検討(1)  第3回(通算18回)量的調査③ アンケート調査項目の検討(2)  第4回(通算19回)量的調査④ アンケート調査表の作成  第5回(通算20回)量的調査⑤ アンケート調査の実施(調査の依頼・実施・回収)  第6回(通算21回)量的調査⑥ データ入力・コーディング(1)  第7回(通算22回)量的調査⑦ データ入力・コーディング(2)  第8回(通算23回)量的調査⑧ 調査データの分析(1)  第9回(通算24回)量的調査⑨ 調査データの分析(2)  第10回(通算25回)量的調査⑩ 調査データの分析(3)  第11回(通算26回)報告書初校の執筆  第12回(通算27回)報告書初校原稿の発表  第13回(通算28回)報告書初校の修正・再検討  第14回(通算29回)報告書の最終修正と製本  第15回(通算30回)報告書の完成、全体のまとめ・振り返り</p>
-------	--

テキスト	<p>教科書は使用しません。  プリント・資料を適宜配布します。</p>
------	--

参考文献	<p>金井雅之・小林盾・渡邊大輔 2012『社会調査の応用』弘文堂  笠原千絵・永田祐編 2013『地域の＜実践＞を変える社会福祉調査入門』春秋社</p>
------	---

評価方法	<p>実習への貢献度50%、報告書執筆への貢献度50%を総合して評価します。  (出席が3分の2に満たない場合は、単位を認めません)</p>
------	--

その他	<p>履修希望者は第一回のオリエンテーションから出席して下さい。  社会調査士資格に必要な科目なので、資格取得を目指す学生は必ずⅠ・Ⅱの両方を履修して下さい。</p>
-----	---